

丹後沿岸における海岸保全施設の整備

3 - 1 . 整備ゾーンと基本方向

(1) ゾーン区分

海岸保全施設の整備に当たっては、第2章でまとめた海岸保全の方向性に従い計画するものであるが、複雑な地形の丹後沿岸において、複数の海岸管理者が、多くの箇所で行うことになるため、地域としての連続性や統一性を損なわないよう、一定の範囲を設定し、大まかな指針を定めることとする。

このゾーン区分を行うに当たっては、大きな要素である地形条件を中心に、社会経済条件や生活文化圏等を考慮して検討する。

ゾーン区分の検討項目

- 自然条件 : 海岸及び背後の地形、流入河川など
- 社会経済条件 : 背後地の土地利用、港湾・漁港等利用形態など
- 生活文化圏 : 通勤、通学、買物等いわゆる生活圏など



丹後沿岸の大部分が典型的なリアス式海岸であり、湾・岬・河川・背後の尾根や谷などによりエリアを作る。このエリアが主要因となり行政界、経済圏、生活圏等を形成していく。

例えば海を利用する産業など、社会経済条件によってもいくつかのエリアをつくる。

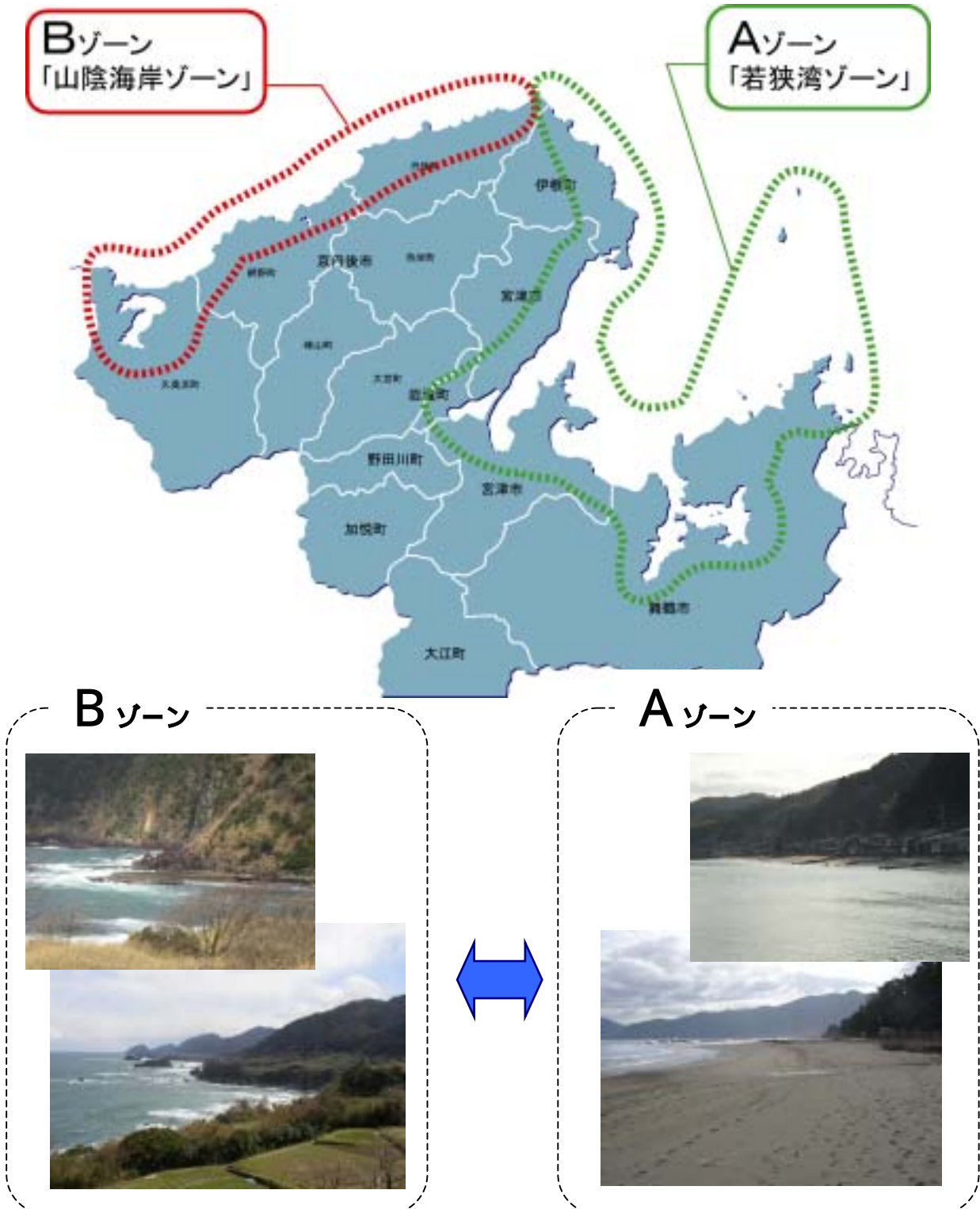
生活文化圏は、交通ルートや手段によりエリアを形成する。陸上交通が発達していなかった昔は、海上交通などを利用し図のようなエリアを形成していたと考えられる。

ゾーニング図

ゾーン設定の考え方

- ・ 経ヶ岬を挟んで地形が大きく変化し波浪の状況が大きく異なる（自然条件）
- ・ 海を利用する産業では丹後半島西側は漁業中心東側は観光中心（社会経済条件）
- ・ 過去からの地域交流圏は経ヶ岬の西側と東側に大別できる（生活文化圏）

以上により経ヶ岬を境にして以下のように大きく2つのゾーン「A：若狭湾ゾーン」と「B：山陰海岸ゾーン」に区分する。



(2) 各ゾーンの整備方針

設定した各ゾーンについて、概要・特徴、海岸保全施設の整備に関する考え方をまとめたくて、施設整備の代表事例を挙げる。

Aゾーン(若狭湾ゾーン)

海岸の概要と特徴

本ゾーンは、西端の経ヶ岬から福井県境に至るエリアであり、海岸延長は約 225km である。出入りの激しい地形であり、比較的緩やかな宮津湾周辺と非常に険しい丹後、栗田、大浦など半島部に分かれる。宮津市北部を除き、若狭湾国定公園となっている。舞鶴、宮津、栗田など湾内が多く、波浪は穏やかな区間が多いが、外洋に面する区間は防護条件が厳しい。



背後地の特徴

本ゾーンには、「近畿百景」第1位の舞鶴湾、舟屋で知られる伊根、そして日本三景の一つ「天橋立」など地域独特な景観が多い。天橋立近くには、籠神社や成相寺など、丹後の古代史を探る上での貴重な遺産も点在する。また、舞鶴や宮津の市街地は、城下町の風情が残っており、古くから商業が発達していたことが感じられる。また、東舞鶴は、旧海軍のまちとして発展し、赤れんが建造物など、その遺産を見ることができる。自然環境としては、「オミズギドリ」の繁殖地として、天然記念物に指定されている冠島や、近年発見された日本最大級のスタジイ巨木など、豊かな自然もまだまだ残っている。



このゾーンは、入り組んだ風光明媚な景観に加え、京都や大阪から近い日本海側の都市であることから、交通の要所であり、商業地・行楽地として発達し、文化的な交流も盛んに行われていた。

整備の考え方

天橋立を中心とする宮津湾周辺と舞鶴湾内は、海岸保全施設の整備が進んでいるが、老朽化した施設の改善を行う。宮津市北部、栗田半島などは、少し外洋的になり、漁業利用があるので、既設施設とのバランスを考慮した整備を行う。古くから海を利用する文化が発達している地域であることから、親水性の向上など対策を十分にとる。

最も端に位置する伊根町域や大浦半島は、ポケットビーチ点在域であり、漁業、海水浴利用などがあることから、各地域に合った海岸保全施設の選択を十分検討する。

施設整備に係る地域の意見

海岸保全施設整備に係る地域の意見を聴取した結果、主として、次のような内容であった。

施設未整備区間の多い外洋部で、防護機能強化の要望が目立つが、内湾部等整備済区間においては、親水性の向上などの意見も多く、生活空間として海岸が親しまれている様子がうかがえる。

施設整備に係る地域の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂浜の侵食対策を実施すること（野原・三浜・大島・本庄等） ・ 防護施設として護岸や消波堤の整備を促進すること（栗田・島陰等） ・ 老朽化施設の改良をすること（岩ヶ鼻等） ・ 海岸へのアクセスを強化すること（瀬崎等） ・ 親水性の高い階段護岸等を整備すること（岩滝等） ・ 整備計画の延伸をすること（江尻等） ・ 十分な工法の検討をすること（神崎・浦島等） ・ 早急な事業着手をすること（舞鶴湾・伊根等）
---------------------	--

整備の事例

宮津港天橋立～日置地区海岸環境整備事業 (S62年～事業実施中)

特別名勝天橋立に連たんする海岸である。昭和40年代に施工された既設護岸は、老朽化が進んでいるため、現況直立護岸を緩傾斜護岸とし、併せて遊歩道整備を行い、景勝地にふさわしい景観を創造するとともに、海浜利用の促進を図っている。



老朽化した既設護岸

護岸を緩傾斜化すると共に遊歩道を整備



B ゾーン（山陰海岸ゾーン）

海岸の概要と特徴

本ゾーンは、西端の兵庫県境から経ヶ岬に至るエリアであり、海岸延長は約 90km である。地形的には、比較的緩やかな西側と険しい東側に大きく分けられるが、西側にも断崖絶壁区間は多く、やはり全体的に険しい地形である。全域が山陰海岸国立公園及び若狭湾国立公園である。海岸線が、ほぼ冬季風浪が卓越する北北西の方向を向くため、湾口が狭く水深が浅い穏域となっている久美浜湾内を除いて、防護条件が厳しい。



背後地の特徴

本ゾーンには、竹野神社などの古くからの歴史を感じさせる神社仏閣や、日本海側最大級とされる神明山古墳や銚子山古墳など多くの古墳・遺跡が点在し、丹後文化発祥の地といわれている。また、琴引浜や浜詰～久美浜海岸などでは、トウテイランなどの貴重な海浜植物が生息し、「日本の渚・百選」に選ばれた丹後屈指の海岸である琴引浜など、まだまだ色々な自然環境が残されている。さらに、「山陰の真珠」とたたえられる美しい久美浜湾を中心にした養殖漁業や、久美浜湾へ流れ込む支流が肥沃な大地を形づくり、米作りや観光農園などが盛んに行われている。



近年は、これまで丹後の大きな産業であった丹後ちりめん産業が衰退していく中で、そうした地域資源を生かしたさまざまな地域振興策が取り組まれ、京都縦貫自動車道など交通アクセスの発達とあわせて、地域活性化への住民・行政一体となった新たな取り組みが進められている。また、平成 16 年 4 月より丹後 6 町が合併し「京丹後市」として新たにスタートをした。

整備の考え方

日本海に直接面する海岸は、冬季風浪による侵食の傾向が見られ、海岸保全施設が未整備の箇所も多いので、対策が必要である。山陰海岸国立公園または、それに続く若狭湾国立公園区域であり、自然の海岸景観が最大の魅力であると言えるエリアなので、可能な限り景観に影響しない海岸保全施設の整備を推進する。久美浜湾内は、比較的古くから施設整備が進んでいるが、日本海に面する自然海岸のように親水性を持たせ、海岸利用を活性化できるような護岸整備を推進し、エリア全体の繋がりの向上を図る。

施設整備に係る地域の意見

海岸保全施設整備に係る地域の意見を聴取した結果、主として次のような内容であった。

施設未整備区間が多いため、防護機能強化の要望が目立つが、施設整備にあたっての環境や利用面での十分な検討を求める声も目立った。

施設整備に係る地域の意見	<ul style="list-style-type: none">・ 海岸侵食への対策をすること（久僧・後ヶ浜等）・ 防護施設として突堤を整備すること（久僧等）・ 十分な工法の検討をすること（久僧・浅茂川等）・ 松の植栽をすること（湊宮葛野等）・ 早急な事業推進をすること（久美浜・蒲井等）
---------------------	--

代表事例

久美浜海岸侵食対策事業（H5～事業実施中）

「砂丘」と称されることもある、日本海に面して約5 kmの砂浜が続く海岸であり、貴重な植物の宝庫でもある。3箇所の海水浴場もあるが、平成2年頃から海岸侵食が目立ち始めたため、山陰海岸国立公園内であることも考慮し、景観に影響のない人工リーフによる侵食対策事業を実施している。



侵食対策のため、延々と続く砂浜の景観に影響のないよう海中に没した人工リーフを施工。人工リーフは魚礁効果があると言われる。

